第３章　　会話における秩序
―インタビューはいかにして可能になるか―

２班
（小野・師橋・山尾）

０．はじめに

この章では次のような事について考えていきたい。

調査の中で行われたインタビューを素材として、その場面において起きたことを取り挙げるとこういったことになる。撮影をしている者とインタビューを行うのは学生３名と教官である。インタビューが開始された直後、インタビューアーがカメラ撮影をしているグループの準備の確認のために一度中断をしてしまう。これによって、インタビューを受けている人（インタビューイー）はそのままインタビューの再開を待つべきなのか、それとも共に準備の確認作業に参加すればいいのか戸惑う。準備する者で交わされる会話や仕草が物語るのはどういった意味をインタビューを受けている人に与えていたのか。そうこうする中で、準備は整い、インタビューは何事もなかったようにまた始まっていく。

中断→準備・インタビューイーの対応→再開、というような大きな流れのもとでどういったことが相互行為として現れているのか考えていきたい。

１．調査の概要

1－1．インタビューの内容

2002 年 9 月 23～25 日の 2 泊 3 日の日程でＡ県（ここでの取材地は仮名とする）の南部に位置するある町(伊勢町とする)に調査合宿に行って来た。その町では、試験的段階ではあるが、コンピュータのネットワークを利用した、福祉情報システム[1]を活用していた。そこでの現状の把握や、またそれを取り巻く人々の状況といったものを調査してきた。

今回掲載しているインタビューは 9 月 23 日の午後から行われたものである[2]。今回、インタビューに応じていただいた中井さん（60 代男性、仮名）はこの福祉情報システムに登録している方である。インタビューは中井さん宅の 2 階において、14 時から約 1 時間に亘っ

---

[1] このシステムの正式名：A 県伊勢町福祉支援情報システムの開発・展開事業、期間：平成 12 年２月～１５年３月。ボランティアが会員登録することにより要介護者･要援助者からの依頼を適切なボランティアに順番に音声合成により電話し、承諾の可否を問い合わせるといったボランティアコーディネイト（需要と供給のマッチングなど）を役場を媒介として行われるもの。それ以外にも様々な機能を果たしている。だが、実際には難点もある。詳しくは次節を参照していただきたい。

[2] このインタビューは 9 月 23 日の午後から行われたものであるが、当初の予定していた時間（14 時ごろ）よりも、多少遅れて始まった。インタビューの内容は多岐にわたり、伊勢町の現状も垣間見えるものになっている。

て行われた。その際、ビデオカメラ2台を設置しての撮影と、テープレコーダーによる音声の録音を行った。なお、その部屋に関してのおおよその見取図、インタビューの様子は62頁以降を参照してもらいたい。

彼は、伊勢町の社会福祉協議会（日常的には「社協」と呼ばれている）が中心で活動をいるシルバー人材センター[3]にも会員登録をされている。

ここでは、主に福祉情報システムを利用者の視点としてどのように考えているのかといったことから中井さんの普段の生活の様子まで幅広く伺った。

これから、注目しようとするシーンはその中でも、インタビューを始めようとする冒頭のシーンにおいて、インタビューアーが一度その場面を崩して、その本人も場面に加わる形で一緒に撮影をしている周囲（学生、教官）に対してもう1度準備及びその確認作業を行い、インタビューを再開しようとする所である。インタビューイーはその場ではどのように振る舞う事が求められるのか？なぜ、そのようなことが起こったのか？また、そういった状況を作り上げたものは会話や各自の動作の中に現れているのか？などといった点に注目しながら議論を進めていきたい。

1－2．地域ボランティア福祉活動支援情報システムの運用について[4]

このインタビューの中ではボランティア福祉活動支援システムについての話題が多く出でいた。彼自身がこのシステムの会員として活動しているということもあるのだろう。そういったことから本論に入る前の予備知識という位置づけとしても、このシステムについてある程度の知識が必要だろう。この節を用いて、少し説明を加えておきたい。

現在、試験的に導入されているシステムは地域社会で行われているボランティア活動を

---

[3] シルバー人材センターとは、高齢者の豊かな経験と能力を生かし、働くことを通じて、社会に参加し、生きがいを高め、健康な日々を送るための福祉を目的とした組織である（シルバー人材センター会員のしおり参照）。2002年の4月から発足し、実際の運営は6月から行われている。社会福祉協議会の担当者の話（事前のインタビュー（02.07.24実施）に福祉事務所の方のインタビューを実施した。）によると、全国的にも高齢者の力を生かそうとする動きは普及しており、実際この町の加入者は他の市町村と比較すると、速いペースで増えてきているという。ここでの主な活動としては、掃除や家事手伝い、書類の整理などがある。また企業からの「委託」という形で依頼もあるという。営利を目的としたものではないことも特徴だといえる給料も「給料」ではなく「配分金」だと強調しておっしゃられていた。）

[4] ここで参照にした資料

・「地域ボランティア福祉活動支援情報通信システムの構築―A県伊勢町福祉支援情報通信システムの開発・展開事業―」（地名については仮名）（2001.05）

・「地域ボランティア福祉活動支援情報通信システムの運用―A県伊勢町福祉支援情報通信システムの開発・展開事業―」（2002.10）

この通信システムの運用方法などについては、調査合宿以前に太田能氏（旧徳島大学工学部知能情報工学科、現在は神戸大学に赴任されている）に多大なご指導を頂いた。わざわざ、総合科学部に来ていただいて、講演もしていただいた。ここで改めて謝辞を申し上げたい。また藤守義光氏（工学院大学）にも中間発表会の際にはさまざまなご指導を頂いた。謝辞を申し上げたい。

さらに促進する目的で、介護補助や日常の生活で困るようなことを抱える支援者をシステムに登録しているボランティアに電話を用いて伝え、そのニーズに応じたボランティアを適宜提供していくというものである。

システムのサービスとしては主に以下の 3 つが挙げられる。

【表 1：情報システムについて】

① スタッフ手配支援システム これがメインと言える機能である。ボランティアが登録した各自のスケジュールをベースにして、要介護者、または支援者からの依頼（具体的には買い物補助、庭掃除、またはイベントへのスタッフの募集など）を適切なボランティアに順番に電話（音声合成されたもの）で承諾の可否を問い合わせる機能を提供する。 ② 情報登録システム ボランティア情報、医療情報、福祉情報、役場情報などを登録し、掲示板として公開する機能など、ネットワークの場を提供する。 ③ 情報提供･取得システム 登録コンテンツをスケジュールにそってマルチキャスト配信（指定した時間などに応じて自動的に情報が配信される。配信先の指定は端末設置場所ごとのグループ指定のほか、年齢範囲･性別の指定が可能である）

以上のようなシステム自体の運用は 2001 年の 5 月から行われているが、実際の利用状況はどうなのか。また、それを使っているボランティアの視点からはこのシステムはどうとらえられているのか？そういった実態を把握するために調査がそれぞれ 2002 年の 3 月と 9 月に実施した。（以下、資料をまとめたもの）

第 1 回調査（2002.3 実施）

＜内容＞

- 手配対応状況
- 音声ガイダンスの聞き取りやすさ
- 認証操作の容易さ

＜結果＞

- 33 人のボランティアスタッフにアンケート用紙を配布、29 人より回答
- 利用率は、ボランティアの依頼が期間内に少なかった事、依頼時間帯に留守であるスタッフが多い点を考慮して、まずまずの結果（59%が電話を受けた事があるという回答）

・ 合成音声による音声ガイダンスについては、声の大きさ、読みの速さ、抑揚について質問をしている。いずれの回答も「よい」「丁度よい」というものがあったが、抑揚については「我慢できる範囲」という回答が目立った。聞き慣れない声であるということはインタビュー中にもおっしゃられていた。
・ 認証操作について
操作の流れは以下のとおり。

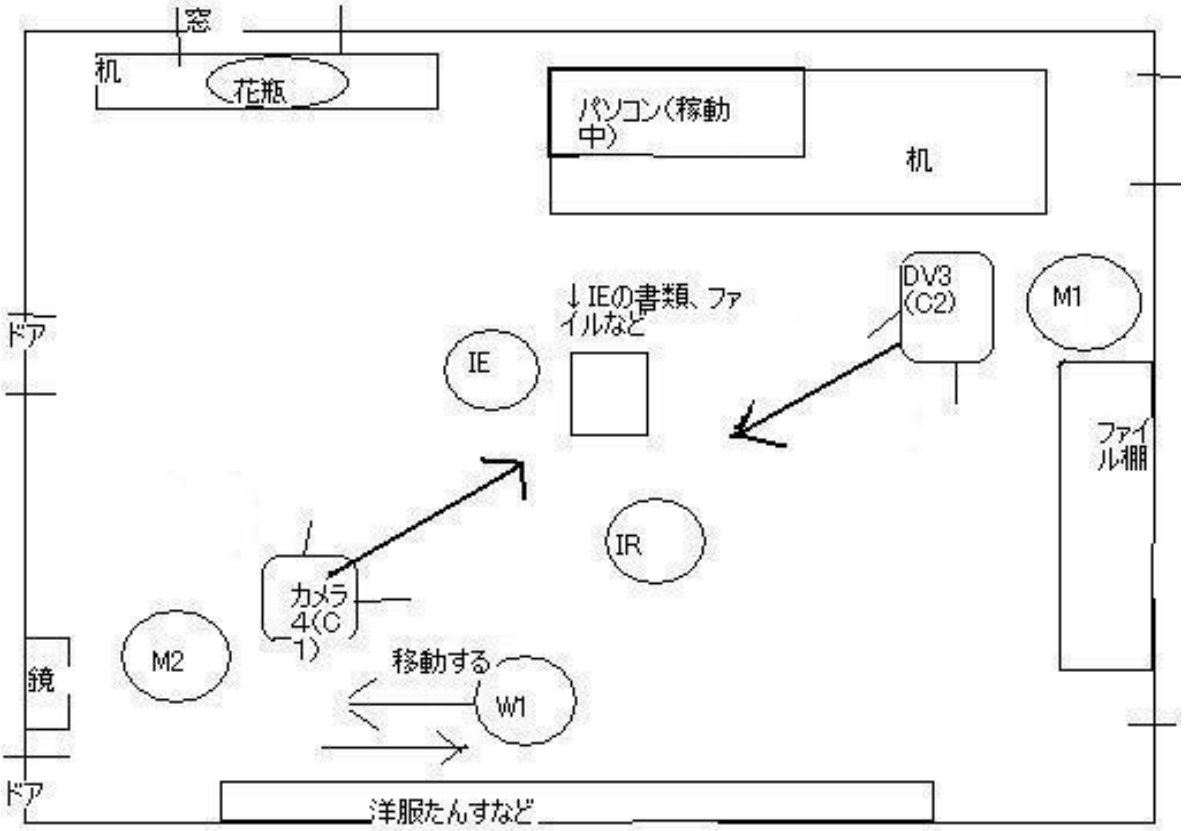
【表 2：操作の流れ】

（音声ガイダンスにそって）
① ユーザーコードと＃を押す
② →パスワードと＃を押す
③ →メールの用件･内容の読み上げを行う
④ →依頼の受諾／辞退／もう一度用件･内容を聞く、のいずれかを選ぶ
（→受諾されたら依頼内容がボランティア宅のパソコンにメール配信される）

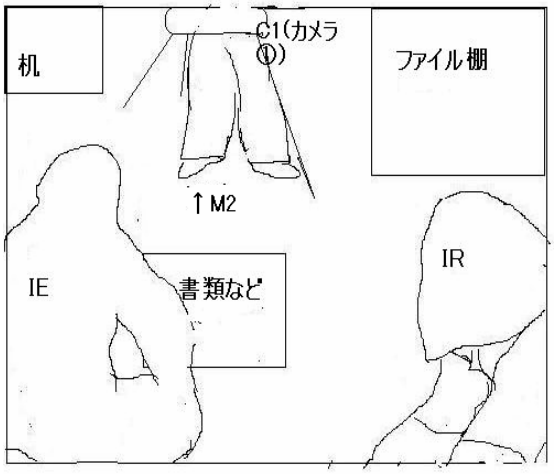
この操作については、「操作しづらい」という回答が過半数を占めていた。

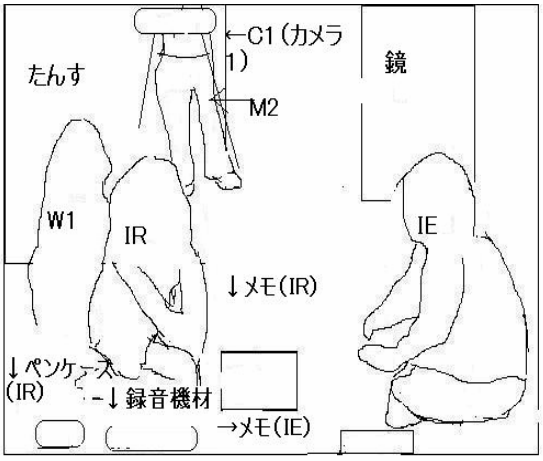
第２回調査（2002.09 実施）
･質問の内容は第１回と全く同じ。回答は 28 名から得ることが出来た。
・ １回目のアンケートより、６～７月をボランティア強化月間と位置づけ、各機関からの協力も得て手配回数を増やした。（前回１２回→今回１６回）
＜結果＞
・ 「抑揚」について前回では「我慢できる範囲」というのが目立っていたが今回は若干であるが減少し、また「よい」という回答も得られた。
・ 認証操作の容易さについては、前回は「操作しづらい」が「問題ない」を上回っていたが今回は逆転した。コンピュータの音声ガイダンスの改善の結果が現れてきているのだろう。
・ 依然として依頼電話の電子音が聞きづらいという意見がある。だがこの調査から見られるように「慣れ」が必要であるとはいえないだろうか。

以上がこの運用システムについての説明及びアンケート調査による現状把握だった。このシステムは 2003 年３月で終了となるが今後の活用についてはまだインタビューを行った時点（2002 年 9 月末）では未定であった。

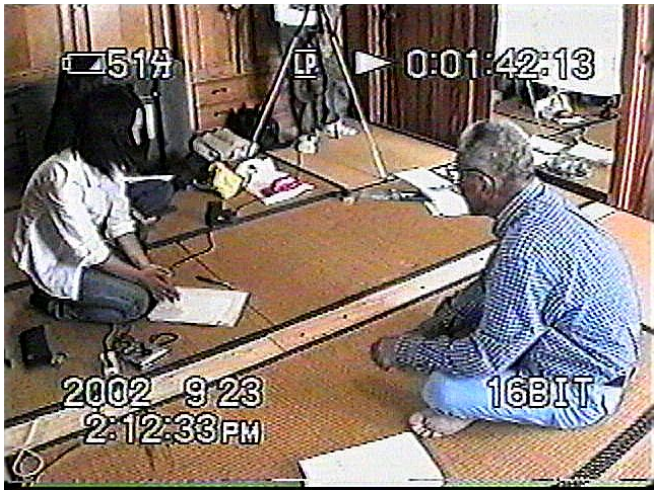


【図１：IE（インタビューイー）宅２階の全体の見取図（2002.09.23 実施）】





【図２（左）：C1 側の映像見取図（9 月 23 日 PM2:12:33）】
【図３（右）：C２側の映像見取図(9 月 23 日 PM2:12:33)】



【画像データ１：見取図の参照として・・・
（上：第一カメラからの映像）（下：第二カメラからの映像）
(2002.09.23) 上（PM2：12：33）下（PM2：12：33）】
＜コメント＞
（上）C1 側からの映像。左側が IR（インタビューアー：インタビューを行う人間)、右側が IE（インタビューイー：インタビューを受けている者）
（下）C2 側からの映像。向かって左側、奥になるのが IE、手前右側が IR である。

【画像データ２：背後にいる w1 が立ち上がる前・後（左→右）】
（2002.09.23）（左　PM2：12：34　右　PM2：12：36）（第二カメラより）
＜コメント＞
左側の映像では、IR の後ろ側にいる W1（女性）は座っているのだが、その後立ち上がり（右側）、C1（第一カメラ）の方に向かう。その後で、仕切りなおしに入ると言う事態を迎える事になる。
ここで紙の音がわずかだが、音声では確認できるようである。（本文で「バックグラウンドノイズ」として指摘されている部分）

【画像データ３：移動している様子（「もうちょっと・・・」という発話の前後）
（2002.09.23）（PM2：12：50）（第二カメラより）】
＜コメント＞
最初 IE がカメラから遠ざかるような形で移動する。その後に、IR は動くのだが、ほんのわずか距離を詰めたように見せかけるくらいにとどまる。下の映像は、C2 側の M1 の発言を受けて、IE がそれを見ている様子でもある。M1 の発言「たいへんですね」は彼を待ちの体制へと導いていたのではないか？

１－３．画像で見る場面の流れ

主なこのストーリーの流れを画像と共に辿ると次のようになる。

画像データ４：ここではまだ準備段階の様子である。画像が鮮明ではないが準備をしている
↓　　るチーム（IR・W1・M2）の様子が明確になっていると思われる。

画像データ５：インタビューが行われている様子である。ここでは、IR－IE 関係が保たれ
↓　　ているように見える。そして、周囲の撮影陣も IR―IE を囲むようにしてこの場面が構成されている。ここから、トラブルが起こっていくのである。

画像データ６：M1 の「はい、大丈夫です」（44 行目）の直後の様子である。この前の発言
↓　　を受けて IR－IE 関係は一度崩れてしまっている。M1 の発言を受けて、IR が第一カメラ（C1）側を向き、それにつられる様にして IR も同じ側を向いているのである。

画像データ７：W1 の発言、「～もうちょっと、悪いけど～」（45 行目）を受けて二人が同
↓　　時に動き出している場面である。ここで W1 が本来移動してほしかったのはその用いた言葉遣いより推測すると、(本文でも言及するが) IR である。だが、同時に IE までが移動しているという状況が生まれてしまったのである。

画像データ８：W1 の発言を受けて、今度は IE は完全に準備が整うまでは待っていようと
↓　　する体制をここでは彼の手元にあるメモ及び書類を見続けることでアピールしようとしている。そして、IR は W1（及び第一カメラ C１のメンバー）に指示されたように IE との距離を詰めようとしている。この状況についての考えられる解釈は色々あると考えられるが詳しくは本文で考えていきたい。画像データ６から８の場面がここで中心に述べていこうとしている場面である。

画像データ９：状況は再びインタビューへと戻っていく。IR―IE が共にお辞儀を交わしなおすという行為が再開された状況をより印象付けているだろう。後ろに位置する W１M2 もそれぞれ、インタビューをメモできる体制に直っている。ここから本格的なインタビューが行われていくのである。

画像データ 5 から８にかけて、それぞれを局面１～３として更に詳しく説明を加えると次のようになるだろう。以下（）の中に出でくる数字はトランスクリプト内での行数である。

＜局面 1＞（画像データ 5,6）

ここでは IR の「準備できました？そっちの方？」（22 行目）という問いかけに対して第一カメラ（C1）側の W1 は「うん」（24 行目）と答え、第二カメラ（C2）側の M1 が「私の方オッケイです」（23 行目）と答えていることから、すべての準備が整った状態でインタビューが「スタート」したかに見えた。つまり、インタビューを行っている二人（IR－IE）とその二人を撮影している三人（M1,M2,W1）というカテゴリーができているはずだった。しかし、このとき C1 は IR を画面の枠に捉えておらず、そのため、M2 は C1 の調整を続けて

いた。インタビューが始まっている中、C1 の調整を続ける M2 のもとへ W1 も歩み寄った。IR は C1 が問題を抱えていることに何かをきっかけ[5]として気づき、「どうしよう、もう早速入っていいですかね？」（４３行目）と C1 を見ながら発言することでインタビューを一旦中断させた。この質問の直後に C2 側である M1[6]が「はい、大丈夫です」（４４行目）と発言することにより、今の状態でインタビューを続けようと促した。M1 は IR-IE 関係をそのまま維持しなさいという、「go ahead(始めなさい)」をしたと思われる。

＜局面 2＞（画像データ 7）

局面１に書いた、M1 の go ahead のすぐ後の W1 の「ああ、や、もうちょっと」（45 行目）という発言により、go ahead は実行されずその場にいる 5 人全員が準備の作業をすることになった場面である。このとき、W1 は「寄ってくれるかな？」（45 行目）というくだけた言葉遣いで､そのアドレス先が IR のみに向けられているという会話のデザインをした。けれど予定外に IR と IE の二人が動いたために、W1 に「あ」（45 行目）と IE に対して非難とも取られかねない言いよどみをしてしまう結果となってしまった｡コラは W1 の｢ああ、や～」（同行）のアドレス先は IR のみのつもりであったと考えられるため、同時に移動に加わった IE に対して W1 は「あ　ｈｈｈ～」（50 行目）と声を出した。

＜局面３＞（画像データ 8、9）

この場面は、準備が完全に完了するまで IE はじっと「待ち」の態勢に入り、その中で準備が整い、インタビューが再開される場面である。W1 の「あ　ｈｈｈ～」（50 行目）という発言によって自分（IE）はこの場において動くという事は適当ではないという判断をしたかのように見える。その理由は、彼の手元にある資料などに目をやる事、それで準備に対しては無関係の態度をとった事からである。そして、W1 の「距離を～」（50 行目から 55 行目）という発言に対して、IR のみが、少しだけ IE との距離を詰めることでその反応を示した。その後、C1 を操作する M2 の「はい、オッケイです」（56 行目）という発言により、すべての準備が整った事を確認し、再びインタビューがスタートした。「～早速始めさせていただきます」（58 行目）という発言や、IR－IE がもう 1 度お辞儀をする事からも分かるだろう。

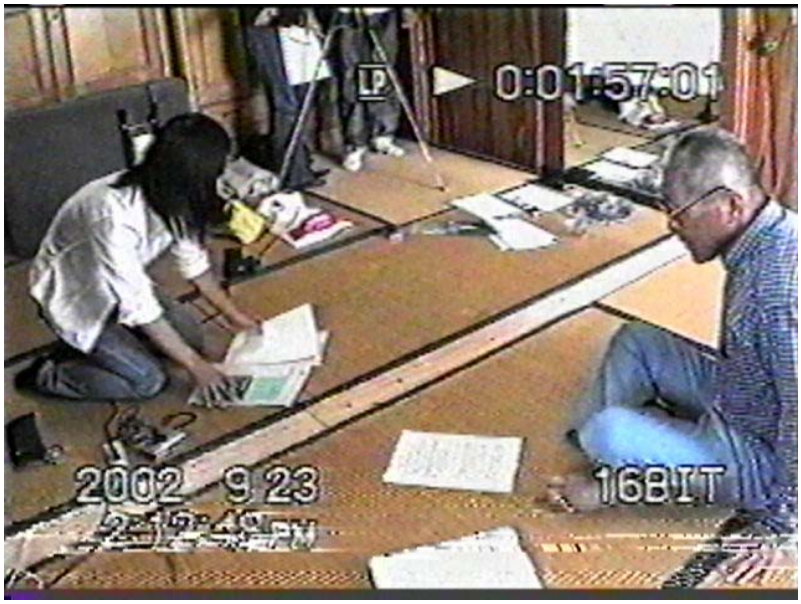
---

[5] 何をきっかけにしているかについては、本論以降で論じているのでここでは省略する。
[6] M1 については、「教官」という立場であるために場面を指揮する権限をある程度持つことは可能だとも考えられる。

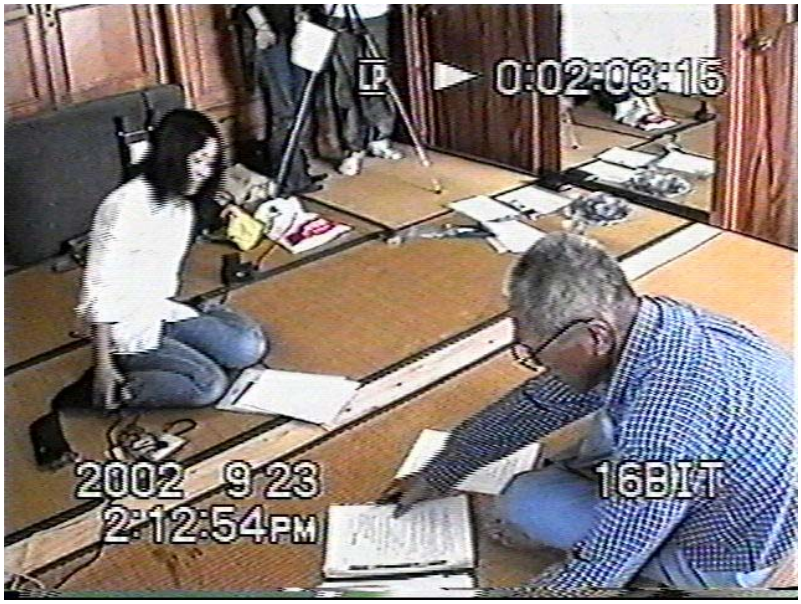
【画像データ４：準備段階（2002.09.23）（PM2：11 頃）（第二カメラより）】

【画像データ５：インタビュー場面（2002.09.23）PM2：12：33）（第二カメラより）】

【画像データ６：局面１（2002.09.23）（PM2：12：44）（第二カメラより）】



【画像データ７：局面２（2002.09.23）（PM2：12：48）（第二カメラより）】



【画像データ８：局面３（2002.09.23）（PM2：12：54）（第二カメラより）】

【画像データ９：再開（2002.09.23）（PM2：13：09）（第二カメラより）】

1－４．登場人物一覧表

［一覧に入る前の注意書き］
IR や IE や M1 と書いている箇所がこれから出てくるが、**単独で使う**場合**名前**として使っている
また、**IR―IE** 関係と書いている場合、インタビューを**する側**である（IR）とインタビューを**受ける側**である（IE）の関係をいいたい時に使っている

［これから出てくる登場人物］

IE・・インタビューの受け手である中井さん（仮名）の名前として使っている。（お客さん）
IR・・インタビューを行なう側である橋本（仮名）の名前として使っている。（スタッフの一員兼学生）
M1・・主に第２カメラ側（ｃ２）の担当をしており、木下（仮名）の名前として使っている。（スタッフ兼教官）ちなみに、M1 とは Man１人目の略字で、男性１を意味している。
M2・・主に第１カメラ側（ｃ１）の担当をしており、桜井（仮名）の名前として使っている。（スタッフ兼学生）M1 と同じで M2 は、男性２を意味している。
W1・・主に第１カメラ側（ｃ１）の担当をしており、尾崎（仮名）の名前として使っている。ちなみに、W1 とは Woman２人目の略字で、女性２を意味している。

［視線トランスクリプトを見る上でのその他］

P・・ペーパーの略字であり、この場合インタビュー関連の資料のことである
下・・視線が下に向いている事である
中・・中空視線のことである
c1・・第１カメラの事で、主に M2、W1 が担当している
c2・・第２カメラの事で、主にＭ１が担当している

２．本論

２－１．　１回目の「私の方オッケイです」（23 行目）

（全体でオッケイといっているわけではない）

ここではまず、インタビューの開始部分の会話の断片を見てみよう。

[断片１]インタビュー開始場面（視線つきトランスクリプト）[7]

（9 月 23 日、PM2：12：20 頃～）

21.IE：

ppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppIRIRIRpppppppppppppppppppp

（（向きを直す））

22.IR：準備できました？そっちの方？=　　　　=はい(2)あけど今回　その　お話聞

M1M1M1M1M1M1M1M1pppppppppppIEIEIEIEIEIEIE

23.M1：　　　　（3）私の方オッケイです=

ppppc2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2

（（立ち上がる。レンズを取り付ける作業））

24.W1：　　　　=うん

25.M2：

c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1

（（カメラをいじっている））

26.IE：　　　　//あ　　　　私あの//：：ボランティアあの：：//シ

ppppppppppppppppppIRIRIRIR下下IRIR下下下下下下下下中中中中中中中中中中中中中中中中中

（（おじぎ））（（おじぎ））　　　　（（橋本の手元あたりを見て話す））

27.IR：かれていただく徳島大学の橋本と申します。よ//ろしくお願いします。(1)　　//はい　　　　//は

IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下下下下下下下下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE

（（おじぎ））

28.M1：

c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2C2C2C2

29.W1：

M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2IEIEIEIEIEIE

（（c1 の方へ手をのばしたりし、c1 をずっと気にしている））

30.M2：

c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c

---

[7] 左側の数字はトランスクリプトの行数の通し番号である。

＜IR＞

IR が、「準備できました？そっちの方？」(22 行目）と言った後、W1 は「うん」（24 行目）と答えている。そして、３秒間が空いて、M1 が「私の方オッケイです」と答えている。よって、この場で準備が出来るのを待っていたのは、第 2 カメラ（ｃ２）の方である M1 の方だと IR がとれるので、IR の即座の「はい」（22 行目）は第 1 カメラ（ｃ１）、第 2 カメラ（ｃ２）両方に対する「はい」だと取る事が出来る。だから、IR の「はい」（22 行目）のあと、P（資料）を見ていることからその後の２秒の沈黙は、インタビューを始める準備態勢を整える間だと思われる。

IR の「準備できました？そっちの方？」(22 行目）は、どこに向いて話しているのか視線が分からないので不明確だが、第 1 カメラ（ｃ１）も第 2 カメラ（ｃ２）もカメラを準備していたので「そっち」という言葉だけでは誰に所属した問いかけなのか分からない。つまり、その問いかけの答える人は準備している誰かに向けられており、答えの所属を**スロット**[8]**（slot：空欄）**の形に作っている。

＜M1＞

ただ、M1 が“私の方オッケイです”（23 行目）と言う、“こちらの方は”という会話のデザインがなされている事から、おそらく W1 の「うん」（24 行目）が聞き取れなかったと思われる。だから“私の方”と言う会話のデザインがなされ、別の誰かが答えられるよう、他者への**スロット(空欄)**の形をこちらも取っている。

このようにクルー（準備チーム）すべての準備が整った(すべてにオッケイのサインがでた)ので、IR は、インタビューがスタートした。

[問題点]

では完全に準備が完了したとしてスタートしたはずなのに、「どうしよう、もう早速入っていいですかね？」(43 行目)といって、なぜ第 1 カメラ（ｃ1）にアドレスされた発話がなされたのだろうか？

前提的仮説を挙げれば、以下のようになる。

① メモを取らなくてはいけないのに座らずカメラをいじっている
② インタビューが始まっているのに、「うん」と承認したはずの W1 が立ち上がり第 1 カメラ（ｃ１）の方へいく（または動く音が聞こえた）
③ インタビュー中にもかかわらず、2 人（W1 と M2）が喋っている

8　スロットとは、隣接対の第２成分が（ex 質問に対する答え、挨拶に対する返答など）入る形で会話を作っている事。

これらの中のどれか、またはいくつかにIRが気付いたために、まだ準備が出来ていないと思った。つまり、**バックグラウンドノイズ(background noise：準備音)**をIRが感じたために、第１カメラ（ｃ１）にアドレスされた発話がなされたと考えられる。（具体的な時間は2：12：26くらいであった）

２―２．　M1：２回目の「はい大丈夫です」（44行目）

ここでも、最初に扱っていく断片から見ていくことにしよう。この部分はトラブルが生じようとする場面である。

［断片２］「はい、大丈夫です」（9月23日、PM2：12：40頃～）

39.IE:　　//はいそうですはい

IRIRIRIRPIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRppppppppppppppppIRpppppp

((nod))

40.IR:のですねシルバー人材の方にも登録されてるって//いうのこの前お聞きしたんですけど(2)どうしよ

下下下下下下下下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下下IEIEIEIEIEIEIEpppppppppppppppppppc1c1c1

41.W1:

（W1が立ち上がってカメラの方へ行く）

---

42. IE:

pppppc1c1c1c1c1c1c1c1c1c1 中中中中中中中 c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1

43.IR:<u>も早速入っていいですかね？</u>＝　　//<u>もうちょっと？</u>

c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1M1M1M1M1M1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c

44.M1:　　＝<u>はい大丈夫です。</u>//

45.W1:　　//<u>あぁ</u>、や、<u>もうちょっ//と</u>::悪いけどこっち寄って

((IEとIRの方に体を向ける))

46.M2:　　//<u>もうちょっと</u>

この発言はとても早い口調で行われている。IRの「も、早速・・・？」（43行目）という質問に対してどういった機能を果たしているのか？1度目のM1な発言「私の方大丈夫です」にはその**「私の方」**というように、次が答えられるように（ここでは第1カメラ（ｃ1）の側と考えられる）答えの<u>空欄</u>を残しているように考えられる。（こういった事は**スロット**と呼ばれる）だが、ここでは「はい」（44行目）というように、相手に対してそういった空欄は残していないようにも捉える事が出来る。だとしたら、むしろ、「いいから進めなさい」と言ったニュアンスを持つものと考えられるのではないか？形式としても後にも述べるが、ほぼ、割り込みに近いものがある。

その直後、W1「／／あぁ、や、もうちょっ：：と」（45行目）と発話する。

２－３．　W1・IR の成す隣接対

ここでの該当部分を図式化すると次のような図にまとめる事ができるだろう。主に４３行目から４６行目をまとめてみた。

質問			
	(Q)	IR：も、早速～?	
答え	(A)	M1：　はい～＝	
	(A)	W1：　＝あぁ、や、もう～＝	
		IR：　＝もうちょっと？＝	**(RC：修正のお願い)**
		W1：　＝悪いけど～寄って～	

【図４：W1・IR のなす隣接対】

ここでの、IR の問いかけに対しての、<u>アドレス先</u>はどこに向かっているのか？それは、W1 の**「や」の発言**から推測できるのではないだろうか？「や」は M1 の発言の直後に入る。そこから、IR はＭ１に対して問いかけているのではなく、第１カメラ（ｃ1）の人間ではなかったのか。だから「や」と発言する事で、発言権はこちら側にあるという**主張（Claim）**になるのではないか。また、「や」が非優先の提案（何かしらのＮｏ）だと考える根拠として、「や」の直前の「あぁ」といっている事でも推測できる。

とすれば、ここでのＭ１の発言は<u>不適当な答え</u>となる。という事で、IR―Ｗ１間で「質問―答え」という隣接対が形成される。また、IR の「もう～？」（43 行目）では直前の W1 の「もう～？」（45 行目）に対してのＲＣ（repair candidate：**修正のお願い**）という解釈が可能になる。また、そういう形を取りながらも主張の確認作業も同時に行っているのではないだろうか？そして、IR の発言「もうちょっと？」（43 行目）は W1 の答えに対して隣接対をなし、挿入連鎖になる。そして、その結果 W1 が、「悪いけど～」（45 行目）と言うように具体的な修正を行っている。

２－４．「たいへんですね」（49 行目）

「たいへんですね」が用いられている前後の文脈を辿ると次のようになる。

［断片３］「たいへんですね」（9 月 23 日、PM2：12：45 頃）

47.IE:

c1c1c1c1c1c1 下下下下下下c1c1 下下下下下下下下下下下下下下下M1M1pppppppppppppp

（（後ろへ下がる））　（（c2 方向へ移動））

48.IR:　　＝私が？＝　　hhh　　hhh

c1c1c1c1c1c1 下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下c1c1c1

（（前へ移動））

49.M1:　　hhh たいへんですね//　　//僕の

50.W1:くれるかな？＝　　＝うん。あhhhすいません　　//距離を//寄せて

51.M2:　　//距離を//

52.IE:

pppppppppppppppppppppppppppppppppc1c1c1c1c1c1c1IRIRIRIRIRIRpppppppppppppp

（（手元の整理を行い移動終了））

53.IR:　　＝はい。(4)いけます？＝　　//はい。　　＝すいません。(2)ちゃ

下下下下下下下下下下下下下c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1pppppppppppppppppppppppppp

（（じりじりと前へ））　　（（位置調整終了））

54.M1:方は大丈夫です。

(3)

55.W1:もらえるんでしょうか？＝

（（元の位置へ変える））

56.M1:　　＝はい//オッケイです。＝

pppppppppppppp

（（c1 を操作））　　（（下に座る））

「たいへんですね」、これは、M1 の発言である。上記も含めて、この部分をまとめてみるとこのようになる。

IR	：＝私が？＝
W1：	＝うん。あｈｈｈすみません
M1：	ｈｈｈたいへんですね／／
M2：	／／距離を／／
W1：	／／～寄せて～？

【図 5：2-3 からの続き】

M1 がこれ以前に発言していた「はい大丈夫です」が不適切のようであると捉えるのであれば、この一見意味のない様にも考えられる M1 の「たいへんですね」はどういったことが考えられるのか？

１）　前言の撤回

→「たいへんですね」の直前に自ら笑っている事から、先程、再開しようとしたが、再び準備することを容認し､そのことを承諾(**go ahead したことの修正**)しているととれる。

２）　IE への配慮（叱っていると取られてしまった言い淀みへの
チームを代表しての謝罪）

→一時カメラ割りなどの修正作業に入って事に対しての、インタビューを受ける側である IE さんへの「待たされる」という状況への配慮として捉える事。

３）　IE が、今の状況に参与してはならない事に対してのフォロー

→今行われている IR・W1 間での発話には IE は指示に従う必要はなく、むしろ今のままでいて、ややこしいが、その二人の指示が出るまでは何もしないで待っていた方がいいのではないかという事の提示？

４）　IE に対して、IR、W1 等の指示に従ってほしいと言う願望

→M1 の方はカメラ割りの方はきちんと出来ており、「大変ですね」というどこか他人事のような言い方から、今は IR、W1 といった中で作業が行われているのだから、そちらの方の指示を仰いでほしい、自分の方は構わなくてもいいという事を遠まわしに言いたかったのか？

【図 6：「たいへんですね」（M1）の解釈の推測】

W1 の「うん。あ hhh すみません」（50 行目）の言葉の後に、この M1 の「ｈｈｈたいへんですね」（49 行目）は発話されている。

（この M1 の「ｈｈｈたいへんですね」の発話に至る前の話の流れ）

IR の「早速入っていいですかね」（43 行目）という言葉は、第 1 カメラ（ｃ１）を向いていっている。このことから明らかにアドレス先は、第 1 カメラ（ｃ１）に向けられていた。けれど、IR の即座に M1 の 2 回目の「はい大丈夫です」（44 行目）が入り、大丈夫だから進めなさいという流れになった。（go ahead）。それを聞き、慌てる感じで W1 の「あぁ、や、もうちょっと」（45 行目）と言葉が即座に続き、それに IR が即座に反応し、第 2 カメラ（ｃ２）をもう 1 度準備し直す事となった。

１）　仮に前言の撤回とするなら・・・

全体として IR、W1、M2 が準備をし直したいチーム、M1 は IR－IE 関係を維持したいチー

ムとクルー（準備チーム）内で、一旦分かれたと考えられる。

IR－IE 関係を維持したいチーム（M1）
準備をし直したいチーム（IR、W1、M2）

【図７：チームの解釈】

その後の「たいへんですね」（49 行目）という言葉には、「はい大丈夫です」（41 行目）と違い、特に go ahead をしているように見えず、準備していることを容認し、承諾しているように見える。つまり、準備しなおしたいチーム（IR,W1,M2,M1）になっており、全員がクルー（準備チーム）に戻ったと思われる。

２）　仮に IE への配慮（叱っていると取られてしまった言い淀みへの チームを代表しての謝罪）とするなら・・・

W1 の「あ hhh」（50 行目）という躊躇は、お客さんである IE に対して失礼にあたりかねないものである。２－５．で詳しく述べるが、その後 IE は、W1「あ hhh」（50 行目）を受けて、W1 の「寄せてもらえるんでしょうか？」に聞き手性の表示を示していない。それは、IE（自分）とクルーとを切り離していたからだ。後の IE がクルーと自分との身体配置を変えた行動より、W1 の「あ hhh」（50 行目）という言い淀みを IE が強く（お客さんである IE に対して非難ともなりかねない）取ってしまったと考えられる。つまり、IE は「準備するチーム」ではなく、「待たされる」事となる。IE に対して非難になりかねない言い淀みと、「待たせている」事自体をその場の代表者として全体的な謝罪している風にもとれる。

３）　仮に IE が、今の状況に参与してはならない事に対してのフォローとするなら・・・

上記のように考えるなら、IE は「待たされる人」であって「準備するチーム」でないと、W1 の躊躇により M1 は理解出来る。そう考えると、M1 の「たいへんですね」は IE が、今の状況に参与してはならない事に対してのフォローとして取ることも出来る。W1 が IE は動かなくてもいいように IR・W1 間でのくだけた言葉を使うという会話のデザインをしたが（２－５）に詳しく述べる）、IE が動いてしまった。それは、さっきまでの身体配置は IR－IE 関係であって、IR がクルーに戻った事で、自分もクルー（準備するチーム）に IE は引きずられてしまっても仕方がない。一方 W1 は、IE はお客さんであり会話のデザインがなされたことからもクルーと IE（お客さん）と区別していたのは明らかである。

IE の理解・・・クルーに属する
W1 の理解・・・クルーと IE（お客さんは別）

【図８：それぞれの身体的配置理解】

上の図に示されるように食い違っているために、IE は W1 に躊躇されるというトラブルが起こったと思われる。この場合の M1 の「たいへんですね」（49 行目）は、身体的配置理解の相違を知っていて行ったものとまでは言えないが、少なくとも IE は時間的に待たされているというだけでなく、IR・W1 間での発話間では「待たされる人」と捉えていたと思われる。そう考えているとしたら、『今行われている IR・W1 間での発話には IE は指示に従う必要はなく、むしろ今のままでいて、ややこしい事にはなるが、その二人の指示が出るまでは何もしないで待っていた方がいいのではないか』という意味合いに取ることも出来る。

４）　IE に対して、IR、W1 等の指示に従ってほしいと言う願望

また M1 の方はカメラ割りの方はきちんと出来ており、「大変ですね」（49 行目）というどこか他人事のような言い方から、今は IR、W1 といった中で作業が行われているのだから、そちらの方の指示を仰いでほしい、自分の方は構わなくてもいいという事を遠まわしに言いたかった風にも取れる。

このように、一見意味がなさそうに見えたり、意味が分からないようなもの、その場においては不適切ではないのかと受け取れるような言葉でも、実は意味があるように捉えられているし、そう解釈する事が可能である。

２－５.「寄ってくれるかな」（くだけた言葉遣い）―

「寄せてもらえるんでしょうか？」（丁寧語）[9]

W1：～悪いけどこっち寄ってくれるかな（45～50 行目）・・・a
W1：／／距離を／／寄せてもらえるんでしょうか？（50～55 行目）・・・b

【図 9：くだけた言葉遣いと丁寧語】

これは同じＷ１が行った発言である。上段を a、下段を b とここでは置く事にする。意味についてもほぼ同じように解釈する事が出来るだろう。

Ｗ１が、M1 の「はい大丈夫です」（44 行目）の後 a は「～こっち寄ってくれるかな」（45～50 行目）と言っている事に対して、b は「／／距離を／／寄せてもらえるんでしょうか？」（50～55 行目）と言うように同じ内容のものを違った言葉使い（丁寧語を用いて）で発話している。a の発話ではその直後に IE が反応して移動してしまっている。だが、くだけた言葉遣いや視線の動きから、ここでは IE ではなくむしろ IR に向けて発信された問いかけだったと思われる。だから、IR は「私が？」（48 行目）という事で確認しているし、W1 も

---

[9] くだけた言葉遣いと丁寧語との言い方に向けられたアドレス先を始めとして、この章全体にわたって藤守義光氏の意義あるご指摘とお力添えを頂きました。この節及び章が何とか形になりましたのも、藤守氏の熱心なご指導・ご指摘のおかげです。本当にありがとうございました。

「うん」（50 行目）と言ってａの会話のアドレス先は IR だけに向けられている。しかし、W1 の「うん。」の後「あｈｈｈ」という。

この「あ」は何を意味しているのか。画像を見ると、IR だけでなく、IE も動いている。この事に対して、発話のアドレス先と違う相手も動いた事に躊躇したのではないか。その後の笑いも「あっ」とマークをしてしまった事態をどう修正すべきなのかといった場の取り繕いを行うような笑いとして考えられないだろうか？IE 自身も W1 の発言によって後ろに寄る移動を止めている。その直後、IE は何も指示されていないが、画面に入るように前後方向ではなく左右方向に動く。

その後、結果としての言及と言う形で W1 は丁寧な言葉で同じような内容を言っている。(b) これは誰に向けられたものなのか。丁寧と言う事は、IE に対してではないかと考える事も出来るし、また両者が解釈してもおかしくないような考え方（どちらに対しても受け入れ可能になるように）も出来るだろう。

丁寧語を用いる・・・	①年長である、またこの状況では待たせてしまっている IE へ対しての言葉 ②a で予想外の展開になったために今度は両者いずれが解釈したとしてもいいようにということでの丁寧語

【図 10：丁寧語を用いるとは･･･】

しかし、ここで起こった結果は、IR がわずかに IE の方に距離を詰めただけで、IE は動かない。

＜その時の IE＞

IE は、先程の W1 の言い淀みを受けたことで、「寄せてもらえるんでしょうか？」（50～55 行目）という言葉に聞き手性の表示を示してはいない。それは P（資料）を見ていることよりも考えられる。この事は、M1 の発言である「たいへんですね」（49 行目）を自分と、周囲の調査に来ている人間とを切り離す、そうする事で、周囲の準備が整うまで自身の準備態勢に入ったと言う事ができ、周りの準備が出来るまで待っている状態であると言える。

後の IR の「はい。（４）いけます？」（53 行目）と言う発言のあと、IE なのに、先に第１カメラ（ｃ１）の方をみてから、IR を見ている。このケースの場合、IE は視線を送るべき IR や資料の方よりも先に第１カメラ（ｃ１）の方を見ていて、それを IR にマークされることは無く許されている。この事からも、IE は、場面(インタビュー)が始まっていない重要なポイントだと認識していたと思われる。

{一般的理論として}

・IR―IE 関係になっている時の聞き手性の表示の必要性

一般的に IR－IE の関係になっているとき聞き手性の表示が必要である。質問に対して返答することは勿論、視線を送ったり、この場合にはインタビューの関わりある資料を見ることでも、聞き手性の表示になる。

この理論から言うと、本来 IE は、一旦クルーから自分を離脱し、P（トランスクリプト記号、ペーパーの略、資料）を見続け、準備待ちという動作をしたことで、今は『IE として待っている』はずであり、視線を向けるとしたら発言者である IR の方を見るはずである。それにもかかわらず、発言者である IR でなく、一旦離脱したはずのクルーの方を見ている。それが許されるのは、クルーが準備中だったという事が、その場にいるすべての人に認識されていたからである。つまり『インタビューの受け手である』IE が、インタビューをする側である IR の発言を契機に準備作業を再び行なった第 2 カメラ（ｃ２）を気にする事が出来る唯一のチャンスであったといえる。

このことから、IE はインタビューが始まっていない場面だと認識していたと言える。

＜その時の IR＞

IR もわずかに IE の方に距離を詰めただけでほとんど動いていない。これは、Ｗ１の「寄せてもらえるんでしょうか？」（50～55 行目）（丁寧語）という指示（お願い）を即座に IR が「はい」（53 行目）と答えていることで、指示を聞いていると表示している。しかし、先ほど IR が IE 側に詰めた分だけまた後方に下がった。その後、Ｗ１に「あっ」（50 行目）と発言される。その結果として IE にはアドレスが向けられていない、つまり IE が**セルフコレクション**（self correction：自分で気づいて直すこと）される事となった。同じ失敗を繰り返さないために、前と同じように詰めてはいけない状態ではあるが、指示として出されているのは『詰めて欲しい』という事なので、言葉上では「はい」と指示に従う表示をし、軽く動く動作をした事で指示は行ったとして IE 側に詰めないようにしている。ここでは、Ｗ１の「寄せてもらえるんでしょうか？」（50～55 行目）というクエスチョンに対してまともなアンサーがないことが、適切になっている。

＜その時のＷ１＞

また、W１側でも、おかしいと解釈できるような事をしている。W1 の「あっ hhh」（50 行目）といういいよどみの後、IE は何も指示されていないにもかかわらず、画面に入るように前後方向ではなく左右方向に動いてくれたので、二人が動いてくれなくても画面に入っているのに、「寄せてもらえるんでしょうか？」（50～55 行目）（丁寧語）といっている。本来ならもうよってもらう必要の無いのに、１回目よりさらに丁寧な言い方でよってもらえるか聞いているのはなぜだろうか？

これは、１回目の「寄ってくれるかな」（45～50 行目）（くだけた言葉遣い）のアドレ

ス先が、IR に向けられていたが、予定外に IE も動いてしまい、「あっ」（50 行目）という言い淀みにより、セルフコレクション（自ら訂正に気付きそれを行う事、状況により自己訂正が好まれる場合がある）がなされた。だから、２回目の「寄せてもらえるんでしょうか？」(丁寧語)は、２人にアドレス先が向いているという会話のデザインがとられている。これは実際には動いてもらわなくてもいいが、１回目の時 IE が動いたことで、形式的にそれでも良かったとフォローしているようにもとれる。また、「寄せてくれますか？」という完全な依頼と言う形ではなく「寄せて**もらえるん**でしょうか？」（50～55 行目）(丁寧語)というようにさらに丁寧に言っていることから、１回目に動いたことを肯定的に擁護している風にもとれる。この「寄せて**もらえるん**でしょうか？」（50～55 行目）という言葉は、実際に動いてもらうためというより、２回目のアドレス先に１回目の行為の**自発性を遡及的に擁護**している為だと思われる。

２－６．　３回目の時の「僕の方は大丈夫です」（49～54 行目）の同時発話
—このときなぜ同時発話が許容されたか？

同時発話がなされているにも関わらず（５０，５１行目）、なぜ、それが会話として成立した形になっているのだろうか。ここでは２通りの考え方を示してみたい。

１）W1 と M2 がチームなのは「//距離を」「距離を」（５０と５１行目）と同じ事をリピートして言っている事から明らかだが、準備をする周囲として**M1 も大枠でのチームの一員**（第１カメラ（ｃ１）と第２カメラ（ｃ２）でチームとしてカテゴリー認識）

２）１回目の時に**会話のデザイン**がなされていたので、同じようなフレーズを繰り返す事でそれが W1 や周囲に其の発話が M1 の宣言(自分の方はオッケイ)だと**遡及的に理解**が出来たから**W1 や周囲にマーク(mark)されなかった**と思われる。ゆえに“僕の方は大丈夫です”（49～54 行目）という**同時発話が許容(承認)された**と考えられる。

２－７．２節のまとめ

１回目は、準備が第２カメラ（ｃ２）待ちという状態で、「私の方オッケイです」（23 行目）という発言により、全ての準備が整ってスタートした。だが、実は準備できておらず、２回目の「はい大丈夫です」（44 行目）では、『いいからスタートしなさい』という**(go ahead)** のサインを出したが、Ｗ１が発話し、IR もその発話に対してＲＣ（repair candidate：修正のお願い）をしているので、go ahead は実行されなかった。そして、３回目の時の「僕の方は大丈夫です」（49～54 行目）において、また１回目と同じ会話のデザインがなされ、今度は第１カメラ（ｃ１）（Ｗ１orＭ２）の準備待ちの状態になった。これは M2 の「はい。オッケイです」（56 行目）を聞いたとたんに、IR が「はい」（53 行目）

と承諾したことからも、明らかに第１カメラ（ｃ１）側の返答を待っていたと思われる。このように、同じことを意味する発話でも、「会話のデザイン」の言い方により、誰に対してアドレス（発信）されているかということを見出すことができた。

３．まとめ

会話のデザインを通して、IR－IE 関係、準備チームとお客さん、それにふさわしい動作、というアドレス先の違いを見てきた。そうして、アドレス先の違いによりそれぞれの心理的身体配置や身体的配置の相違がある事を、局面１～局面３の身体配置の変化で見ていきたい。

＜局面１＞・・インタビュー体勢から準備体勢へ
―現状維持チーム（go ahead）と準備チーム―

局面 1 では、図 11 のように完全に準備が出来たとしてスタートした。

IR－IE 関係・・・・・IR と IE
クルー準備チーム・・・第１カメラ（M1、W1）、第２カメラ（M2）

【図 11：身体的配置の解釈として】

ところがその後、第１カメラ側のバックグランドノイズに IR が気づき、「どうしよう、もう早速入っていいですかね？」（４３行目）と一旦インタビュー体勢に入ったにもかかわらず、第１カメラ側を見ながら問いかけた。この時の IR の心理的身体配置は、IR－IE 関係としての IR とクルー（準備チーム）の一員としての IR と２つのカテゴリーの間で不安定に図 12 のように交錯していたと思われる。

IR－IE 関係としての IR・・・・インタビューをする側
クルーの一員としての IR・・・・準備をする側

【図 12：IR の心理的身体的配置の解釈として】

この場面では IR は第１カメラ（ｃ１）の方にアドレスされた発話だったが、アドレス先でない第２カメラ（ｃ２）の方の M1 が即座に「はい、大丈夫です」（44 行目）と発言したことで、『いいから進めなさい』といったニュアンスの go ahead したかに見える。また即座に、その go ahead を IR に遂行させまいとして、「あぁ、や～」（45 行目）と第１カメラ側である W1 が発言し、IR も適切なアドレス先の発言に反応して準備の修復作業へと入る事となる。つまり、この時クルー（準備チーム）内でこのまま IR－IE 関係を維持したい第２カメラチームと、再び準備し直したい第１カメラチームと図 13 のように分かれた。

第１カメラチーム（M2、W1）・・・**準備し直したい**チーム 第２カメラチーム（M1）・・・**現状維持（IR－IE 関係**）をさせたいチーム（go ahead）

【図 13：第１カメラチームと第２カメラチームとの身体的配置の解釈として】

＜局面２＞準備修正中での身体的配置の不一致

―それぞれの身体配置認識―

局面２では、準備の修復作業を行なうスタート場面である。W1 の「～もうちょっと悪いけどこっち寄ってくれるかな」（45～50 行目）というくだけた言葉遣いから、この発言のアドレス先は IR のみに向けられている。それは IR が「私が？」と聞いているのに対し、W1 も「うん」と承認していることからも動いてほしいのは IR だけだと分かる。けれど、アドレス先ではなかった IE も動いてしまって、W1 が「あｈｈｈ～」（50 行目）と IE に対して非難ともとられかねない強いマークをしてしまった。この時の W1 の心理的身体配置は図 14 のようになっていたと思われる。

IR だけ動いてほしい・・・（理由）W1 はクルーの一員だから IE はそのまま待っていてほしい・・（理由）IE はお客さんだから

【図 14：W1 の心理的身体的配置の解釈として】

つまりこの時の身体的配置として W1 は、図 15 のようにしてもらうつもりだった。

IR への身体配置の要求・・IR－IE 関係としての IR から**クルーの一員としての IR へ** IE への身体配置の要求・・IR－IE 関係としての **IE を維持**（待機しててほしい）

【図 15：W1 の IR と IE への身体的配置の要求の解釈として】

けれどこの時起こったことは、今まで IR－IE 関係をしていた IR が離脱しクルーの一員となった事で、本来はお客である IE もクルーの一員として付随する形で認識され、図 16 のような W1 と IE との身体的配置の不一致が起こってしまった。

IE の身体的配置の認識・・・**クルーに属する** W1 の身体的配置の認識・・・IE はお客さんで**クルーに属さない**

【図 16： IE と W1 の身体的配置の解釈として】

またこの直後の M１の「たいへんですね」（43 行目）の４通りの解釈のうち、どれが１番近いかという断定は今回においてはできなかったが、少なくとも、現在準備の修復作業を行なうことを容認していることは確実である。つまり一旦 IR－IE 関係を維持する go ah

ead をしたが、今はむしろ準備をしているチームの一員として、準備し直すことを肯定しているのである。それは図 17 のように身体配置が変化した。

go ahead した時・・・・・・・・・・**IR－IE 関係を維持**しクルーを入らせない 「たいへんですね」といった時・・・**クルーの一員**（第１カメラ、第２カメラ、I

【図 17： M1 の身体的配置の解釈として】

＜局面３＞準備中からインタビュー再開に向けて
―IE のクルーからの離脱と IE（IR－IE 関係としての IE）としての待機―

局面３では、局面２で W1 が「あｈｈｈ～」（50 行目）と IE に対して非難ともとられかねない強めのマークを受けた事で、その後の「寄せてもらえるんでしょうか？」という丁寧な言い方には IE は聞き手性の表示を示していない。これは準備が完全に完了するまでＩＥは、IR－IE 関係の IE としてじっと「待ち」の体勢に入っているためだと考えれる。その理由として、手元にある資料などに目を向け、周りの準備チームから自分を切り離し、準備に対しては無関心という態度をとった事が挙げられる。つまりこの時の IE の身体配置は、W1 に「あｈｈｈ～」というマークを受けた事で、図 18 のように変化した。

W1 にマークを受ける前・・・IR－IE 関係としての IE から IR の身体配置の移動に引きずられる形で**クルーの一員としての IE** へ W1 にマークを受けた後・・・クルーから離脱し、**IR－IE 関係としての IE** として準備待ちへ

【図 18： IE の身体的配置の解釈として】

その後、第１カメラを準備している M2 の「はい、オッケイです」という発言により、全ての準備が整ったことを確認し、再びインタビューが再開した。

＜局面１～局面３を通してのまとめ＞

このように場面ごとに、心情的身体配置が変化しているという意味では安定していないが、IR－IE 関係は明確に区別され、たくさんの場面の要素を使って安定をしている。それは会話のデザインを通して、３つの振る舞いを使い場面ごとに今の心情的身体配置の関係を変化させながら場面を維持している。１つ目は体の向き、2 つ目は視線、3 つ目は誰の声に反応を示すかによって場面ごとに関係を切り替えている。インタビューを通して分かった事は、はじめから IR－IE 関係としてあり続けるわけではなく、場面ごとにその場面に応じた場面作りをしていた。このように、インタビューの開始→中断→再開という流れの分析を通して、人間活動の詳細さ、場面形成の能力の高さが見られた。

４．おわりに

以上で見てきたように、発話は、話される言葉自体には意味が無くても、その場の会話の秩序として形成され意味あるものとして成り立っている。この事は、人々が意識して会話のデザインを成しているものでなく、無意識のうち（潜在的な意識の中でと考えてもいいだろう）に行なっている。何気なく話している言葉や、単語のレベルで見てみると一見、意味の無さそうなものでも、人々は意識することなく言葉（会話）によってその場その場で秩序付けを成しているのだ。例えば、くだけた言葉と丁寧な言葉で、問いかけのアドレス先（自分が答えを求めようとする相手）を無意識に言い分けるように、様々な場で無意識に秩序付けており、意味あるものにしている。それは何も今回取り上げた、インタビューの場面に限ったことではなく、IR－IE 関係やクルーのカテゴリー間での身体配置が変化して、インタビュー場面を協同で作り上げていったように、さまざまなケースでも同じように身体配置を変更し安定させていく事で場面は作り上げられていると考えることが出来るように思われる。

【資料１：本章で扱った会話の全容】

トランスクリプト一覧（2002．09．23）（PM2:10 頃から開始）

IE・・・中井さん　IR・・・橋本　M1・・・木下　W1・・・尾崎　M2・・・差位

p　・・・ペーパーの略字。この場合インタビュー関連の資料。

下・・・視線が下を向いている事を表す。

中・・・中空視線を表す。

c1・・・第一カメラの略。主に M2、W1 が操作。

c2・・・第二カメラの略。主に M1 が操作。

1.IE：　　＝あ：：そうですか分かりました

2.IR：

3.M1：それで私ども半分役場におりまして、半分こちらに来てですね＝　　あの：：

4.IE：

5.IR：

6.M1：やりとりがどんな風に（1）行われているかっていうを？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？

7.IE：　　//ええ　　//はいはい

M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1M1 下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下

8.IR：

9.M1：をお借りして//　　できればと思って（1）今日もあの半分そのカメラのテストを兼ねて//

IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下IEIEIEIEIE下下下IEIEIEIEIEIEIE下下下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE

10.IE：

下下下下下下下下下

11.IR：

12.M1：お邪魔しております。

下下下下下下下下下

準備の音（24）

IE：ファイルをずっと見ている

M1：カメラをずっと見ている

13.IE：

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

（（反応なし））

14.IR：きれいにファイリングなされているんですね。（18）//

15.M1：　　//え今回の聞き役すいません私付き添いです

c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2 下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE

（（中井さんにカメラを合わせる））　　（（しゃがむ））

16.M2：

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

---

17.IE：　//はい　　//はい

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

（（下を見たまま相づちをうつ））

18.IR：

19.M1：ので//　　すいません学生の方が続けて//作業致しますのでよろしくお願いします。(2)

IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEpppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

20.M2：

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

（（立ち上がる））

21.IE：

ppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppIRIRIRpppppppppppppppppp

（（向きを直す））

22.IR：準備できました？そっちの方？=　　=はい(2)あけど今回　その　お話聞

M1M1M1M1M1M1M1M1ppppppppppppIEIEIEIEIEIEIEIE

23.M1：　　(3)私の方オッケイです=

ppppc2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2

（（立ち上がる。レンズを取り付ける作業））

24.W1：　　=うん

25.M2：

c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1

（（カメラをいじっている））

26.IE:　　　　　　　　　　　　　　　//あ　　　　　　　私あの//::ボランティアあの::// シ
pppppppppppppppppppIRIRIRIR下下IRIR下下下下下下下下下下中中中中中中中中中中中中中中中中中
((おじぎ))((おじぎ))　　　　　　((橋本の手元あたりを見て話す))
27.IR:かれていただく徳島大学の橋本と申します。よ//ろしくお願いします。(1)　　//はい　　　　　　//は
IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下下下下下下下下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE
((おじぎ))
28.M1:
c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2C2C2C2
29.W1:
M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2IEIEIEIEIEIE
((c1 の方へ手をのばしたりし、c1 をずっと気にしている))
30.M2:
c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c

(2:12‘33)
↓
31.IE:ステムのですね、//え::登録会員としてですね、//中井でございます。よろしくお願いします。(1)
中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中IRIRIRIRIRIRIRIRIRIR下下下下下中中中中中pp
((背筋をのばす))　　((おじぎ))((c1 方向))
32.IR:い　　　　　//はい　　　　　　　　//はい　　　　　　はい失礼します。
IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下下下下下下下下下IE下
((おじぎ))
33.M1:
c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2c22c2c2c2c2c2c2c2c2c2c2
34.W1:
IEIEM2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2M2
35.M2:
c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1

36.IE:＝
下下下下IR
37.IR:＝中井さんあ
下下下下
38.W1:
M2M2M2TT

39.IE:　　//はいそうですはい

IRIRIRIRPIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRppppppppppppppppIRpppppp

((nod))

40.IR:のですねシルバー人材の方にも登録されてるって//いうのこの前お聞きしたんですけど(2)どうしよ

下下下下下下下下下IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIE下下下IEIEIEIEIEIEIEpppppppppppppppppppc1c1c1

41.W1:

(W1 が立ち上がってカメラの方へ行く)

---

42. IE:

pppppc1c1c1c1c1c1c1c1c1c1 中中中中中中中 c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1

43.IR:も早速入っていいですかね？＝　　//もうちょっと？

c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1M1M1M1M1M1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c

44.M1:　　＝はい大丈夫です。//

45.W1:　　//あぁ、や、もうちょっ//と::悪いけどこっち寄って

((IE と IR の方に体を向ける))

46.M2:　　//もうちょっと

47.IE:

c1c1c1c1c1c1 下下下下下下c1c1 下下下下下下下下下下下下下下下下M1M1ppppppppppppp

((後ろへ下がる))　((c2 方向へ移動))

48.IR:　　＝私が？＝　　hhh　　hhh

c1c1c1c1c1c1 下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下c1c1c1

((前へ移動))

49.M1:　　hhh たいへんですね//　　//僕の

50.W1:くれるかな？＝　　＝うん。あhhhすいません　　//距離を//寄せて

51.M2:　　//距離を//

52.IE:

pppppppppppppppppppppppppppppppppc1c1c1c1c1c1c1IRIRIRIRIRIRpppppppppppppp

（（手元の整理を行い、移動終了））

53.IR: ＝はい。（4）いけます？＝ //はい。 ＝すいません。（2）ちゃ

下下下下下下下下下下下下下c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1c1pppppppppppppppppppppppppp

（（じりじりと前へ）） （（位置調整終了））

54.M1:方は大丈夫です。

（3）

55.W1:もらえるんでしょうか？＝

（（元の位置へ変える））

56.M1: ＝はい//オッケイです。＝

pppppppppppppp

（（c1 を操作）） （（下に座る））

57.IE: //はいはいよろしくお願いし

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppIRIRIRIRIR下下下下下下下下下下

（（礼））

58.IR:んとお答えまで作っていただいて本当申し訳ないですけど、じゃ早速//始めさせていただきます。

pppppppppppppppppppppppppppIEIEpppppppppppppppIEIEIEIEIEIE下下下下下下下下下IEIE

（（礼） （（nod））

59.W1:

下下下下下下下下下IEIEIEIEIEIEIEIE

（（移動して座る）） （（礼））

60.M2:

pppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

（（ノートをとる態勢））

61.IE：ます。=　　　　　　＝まあなんとかhhh協力できる//範囲内で　//はい　　　//はい

下下IRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIR

62.IR：　　=お願いします＝　　　hhh　　　//いえいえもう//hhh お話聞か//せていただく

IEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEIEpppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

（（首を振る））

63.W1：

IE下下下下下下下IRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRpppppppppppppppppppppppppppppppp

64.M2：

ppppppppppppppppppppppppppppppppppppppIEIEIEIEIEIEIEpppppppppppppppppppppp

65.IE：　　　　//はい

IRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRpppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

66.IR：んで十分なんで//えと、お願いいいたしあのじゃ早速入っていきますけど、あの：：七月

ppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

67.：W1

ppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppppp

68.M2：

ppppppppppppppppppppppppppppppIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRIRpppppppppppppppppppppp